

農村歌舞伎「葛畑座」沿革

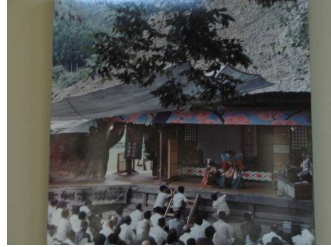
天文13年 (1544年) 葛畑荒御霊神社の境内にお堂が造られる

明治3年 大阪で歌舞伎を学んだ藤田甚左衛門を中心に「葛畑座」が結成される

明治25年 葛畑芝居堂を改修する(現在の芝居堂)



葛畑芝居堂



第2回復活公演



農村歌舞伎衣裳

昭和39年 第1回復活公演(葛畑芝居堂)

昭和41年 第2回復活公演(葛畑芝居堂)

平成13年 地元の住民を対象とした舞台の案内人を養成

平成14年 用具等の整備、舞台操作技術伝承者・農村歌舞伎伝承者の養成をはじめ

平成15年 第3回復活公演(葛畑芝居堂で3回)「葛畑三番叟」「絵本太功記十段目尼崎閑居の場」



第3回復活公演



北播磨交流の祭典



平成16年 農村歌舞伎公演(葛畑芝居堂で3回)「葛畑三番叟」「新版歌祭文 野崎村 久作住処の場」

平成17年 北播磨交流の祭典 農村歌舞伎祭出演(播磨中央公園)「新版歌祭文 野崎村 久作住処の場」

平成18年 県民創作公演(兵庫県立芸術文化センター)「葛畑三番叟」「新版歌祭文 野崎村 久作住処の場」



県民創作公演



太夫三味線奏者の育成を開始

あしたの日本を創る協会 ふるさとづくり賞振興奨励賞受賞

兵庫県芸術文化協会 ふるさと文化賞受賞

平成19年 太夫三味線奏者の育成を継続

葛畑農村歌舞伎伝承会立上

知事功労章受賞



三味線教室